

教務だより

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果

全国学力・学習状況調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象に、

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

ことを目的として、文部科学省が、学校の設置管理者である都道府県教育委員会、市町村教育委員会等の協力を得て実施するものです。

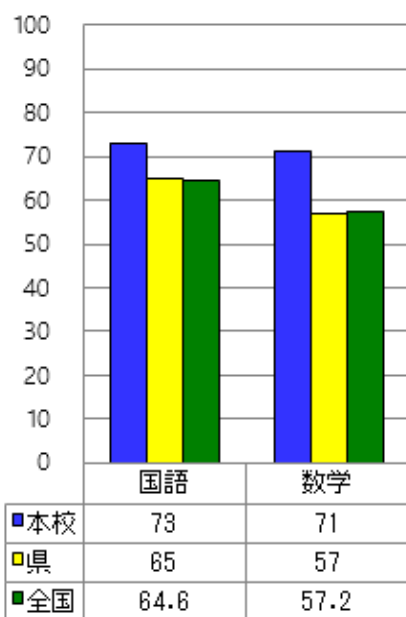
本年度は、5月27日(木)に調査を実施し、平均正答率(%)は次のような結果(本校並びに県平均は、小数第1位を四捨五入した数値の公表)でした。

国語の得点は73(全国比+8.4pt)、数学の得点は71(全国比+13.8pt)と、いずれの教科においても概ね良好な結果となっている。

成果として受け止められる点は、無回答率の低さである。国語の無回答率は0.3(全国比-4.1)、数学の無回答率は1.3(全国比-9.9)と、いずれの教科においても大変良好な結果となっている。

課題として取り組まなければならない点は、国語の「話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」「文脈の中における語句の意味を理解する」「相手や場に応じて敬語を適切に使う」の設問において、わずかに全国平均を下回った点である。

数学の設問毎の正答率は、すべての項目で全国平均を上回っており、大変良好な結果といえる。



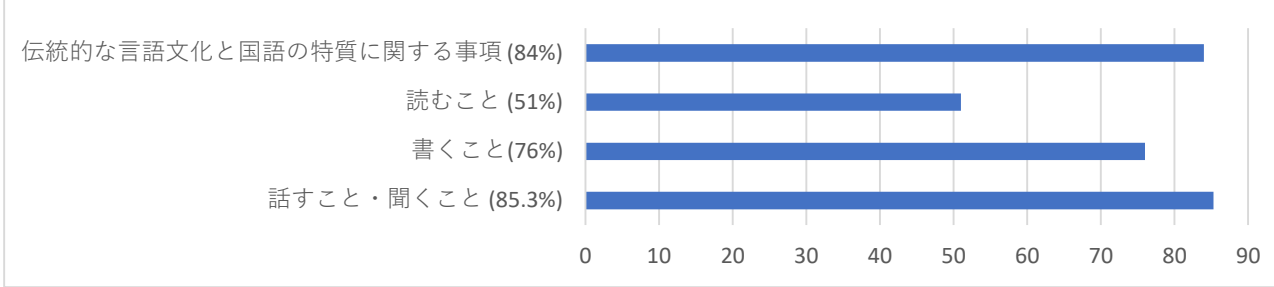
全国学力・学習状況調査の問題は、学習内容に係る知識・技能を活用する力を問う問題です。近年、公立高校入試の問題の傾向は以前までのものと大きく変わってきています。具体的には、知識の習得だけでは対応できず、知識を組み合わせる考え、自分の考えをまとめて文章等で表現する力(活用力)が求められる問題が多く出題されています。

2学期のスタートにあたって、「基礎・基本」を身につけた上で、それを活用して新たな価値を創造し、「※聴き合うことで深い学び」となる授業づくりを、全教職員で確認して取り組んでいきます。

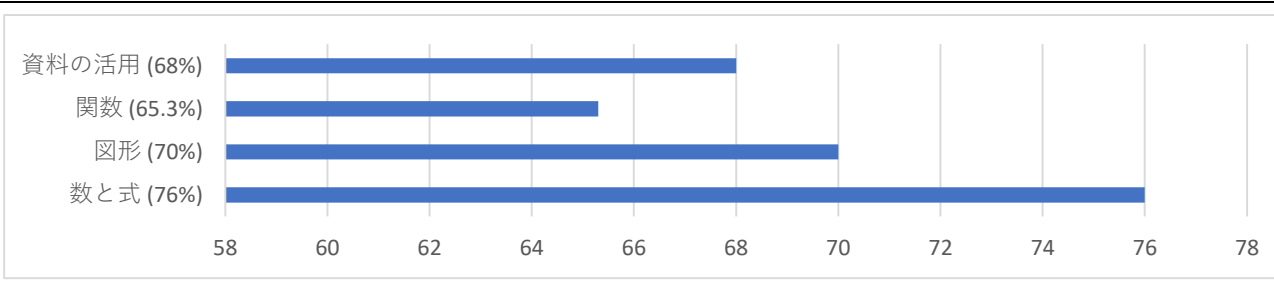
※コロナ禍においては筆談という形式を採用しています。

全国学力学習状況調査 一指導方法等の改善計画について

【国語科】

平均正答率 73%（全国 64.6%）											
 <table><thead><tr><th>項目</th><th>正答率</th></tr></thead><tbody><tr><td>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (84%)</td><td>84%</td></tr><tr><td>読むこと (51%)</td><td>51%</td></tr><tr><td>書くこと (76%)</td><td>76%</td></tr><tr><td>話すこと・聞くこと (85.3%)</td><td>85.3%</td></tr></tbody></table>		項目	正答率	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (84%)	84%	読むこと (51%)	51%	書くこと (76%)	76%	話すこと・聞くこと (85.3%)	85.3%
項目	正答率										
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (84%)	84%										
読むこと (51%)	51%										
書くこと (76%)	76%										
話すこと・聞くこと (85.3%)	85.3%										
重点課題	重点課題に対応した改善指導内容及び方法										
【課題 1】 ・「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する。という語句の意味を理解する問題において、平均正答率が 36%（全国比－3.7%）であった。 【課題 2】 ・参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く。という記述式の問題において、平均正答率が 56%（全国比－1.7%）であった。	【課題 1】 ・文章読解の際に、心情理解や文章構成に意識が偏っているため、語句の意味をはじめ、叙述に着目する読みを深める必要がある。 【課題 2】 ・記述式の問題では、無回答者こそいなかったものの、主旨を明確にして書いたり、順序立てて書いたりすることに課題がある。書き方の型を意識して書く必要がある。										

【数学科】

平均正答率 71%（全国 57.2%）											
 <table><thead><tr><th>項目</th><th>正答率</th></tr></thead><tbody><tr><td>資料の活用 (68%)</td><td>68%</td></tr><tr><td>関数 (65.3%)</td><td>65.3%</td></tr><tr><td>図形 (70%)</td><td>70%</td></tr><tr><td>数と式 (76%)</td><td>76%</td></tr></tbody></table>		項目	正答率	資料の活用 (68%)	68%	関数 (65.3%)	65.3%	図形 (70%)	70%	数と式 (76%)	76%
項目	正答率										
資料の活用 (68%)	68%										
関数 (65.3%)	65.3%										
図形 (70%)	70%										
数と式 (76%)	76%										
重点課題	重点課題に対応した改善指導内容及び方法										
【課題 1】 ・選択式の無回答率が 0%であるのに対し、短答式・記述式の無回答者が 1～2 名であった。	【課題 1】 ・理解に遅れがある生徒に対して、習熟度に応じた課題や手立てを講じて、定着を図る必要がある。										